

## 農機初荷出発式



JA筑紫は1月11日、筑紫野市のJA農機センターで、令和5年農機初荷出発式を行いました。

出発式には、JA関係者ら21名が参加し、新しい田植え機やトラクターなど11台の農機が、心待ちにしている組合員のもとへ一斉に出発しました。

JA役職員らは購入された農機で作業が安全に行われるよう祈願し、初荷を見送りました。

JAの白水清博組合長は「今後も組合員の要望に迅速に対応し、JAと農家を繋げる架け橋となるよう仕事に取り組んでほしいです」と話しました。

## ご愛読キャンペーン・抽選会



JA筑紫は1月12日、筑紫野市のJA本店で家の光三誌・日本農業新聞「ご愛読感謝キャンペーン」抽選会を開きました。

このキャンペーンは、購読者に日頃の感謝の意を伝えたいと企画したものです。

抽選会には、JAの白水清博組合長やJA女性理事、女性部役員ら15名が参加し、応募総数約1200件の中から350名の当選者を選びました。

「家の光三誌・日本農業新聞購読者の集い」は例年2月にJAと女性部で開いていますが、昨年同様新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となり、今年も抽選会を開催しました。

当選人数は、A賞の博多和牛が10名、B賞の季節の果物セットが10名、C賞の季節の野菜セットが10名、D賞の博多和牛レトルトカレーが20名、E賞のJAの麺セットが100名、F賞のJA直売所「ゆめ畑」などで使える商品券が200名。当選者の発表は商品の発送をもって代えます。

## 営農経営座談会開催



J A筑紫は1月19日から27日まで、管内5市65カ所で令和5年営農経営座談会を開催しました。太宰府市北谷地区の座談会には、組合員、行政担当者、J A職員など15名が参加。

座談会ではJ A職員が、組合員に対し、次年度の農政や普通作、園芸振興などについて、各行政担当者と共に説明しました。

今年度は例年より1か月程度早く座談会を開催し、国や県の肥料高騰対策支援事業について説明を行いました。さらに、環境負荷や経営コストの低減に繋がる化成肥料の使用低減取り組みの実践を促しました。今後も広く生産者への周知を図り、3月より申請受付を開始する予定です。

## ミュージカルで二セ電話詐欺撲滅へ



J A筑紫春日支店女性部は1月20日、春日支店で二セ電話詐欺撲滅ミュージカルを鑑賞しました。この取り組みは女性部支店活動の一環で、福岡県内での二セ電話詐欺の撲滅のため、春日警察署員によって行われたものです。

当日は、女性部員36名が参加し、キャッシュカードをだまし取る手口の二セ電話詐欺を題材にしたミュージカルが開催されました。

鑑賞した女性部員は「歌や踊りを交えた分かりやすい公演だったので、楽しく学びました。参加してよかったです」と話しました。

さらに今回はミュージカルだけでなく、自転車による事故の注意喚起や交通事故に関するクイズを行うなど交通学習にも取り組みました。

J Aはこれまでも二セ電話詐欺撲滅の注意喚起や地域の防犯活動など積極的に取り組んできました。今後も、J Aが掲げる「地域の活性化」へ貢献し、地域に必要とされるJ Aを目指します。

## 女性部員と役職員対話集会



ＪＡ筑紫は、１月２７日にＪＡ本店で、女性部員１１名と理事や役職員１８名の対話集会を開きました。

女性部の古川徳子部長が、活動内容や現状を報告。参加した部員は、女性部活動やＪＡの事業へ意見や要望を伝えました。

ＪＡでは、今回の対話集会を通じて女性部の声を反映した経営に取り組みます。

## 高品質な麦作りをめざす



ＪＡ筑紫は１月３０日、筑紫野市のＪＡ本店で令和５年産麦中間管理講習会を開き、部会員や福岡普及指導センター、ＪＡ全農ふくれん、ＪＡ農産課職員ら３３名が参加しました。

ＪＡ全農ふくれんや福岡普及指導センター職員が、麦類情勢や麦の生育状況、今後の管理・スケジュールなどを説明。

ＪＡ筑紫麦出荷者部会の佐伯繁久部会長は「今年も１等Ａランクを獲得できるように中間管理の作業をしっかりと行いましょう」と呼びかけました。

また講習会では、令和４年度福岡県麦作共励会にて、麦作集団の部で最優秀賞（県知事賞）を受賞した農事組合法人西小田の表彰も行いました。

ＪＡでは今後も適正な管理を呼びかけ、高品質な麦の生産を目指します。